MATT BISHOP

LONDON SPEAKER BUREAU

- **Journalist, Author and Public Relations Executive**
- **Former Communications Director at Aston Martin F1 team and McLaren Racing**

Topics

- Change
- Communication Strategy
- Crisis Communication
- Diversity
- Equity and Inclusion

マット・ビショップはマクラーレンとアストンマーティンのF1チームの元最高コミュニケーション責任者であり、このスポーツにおいて最も影響力のあるコミュニケーション専門家の一人です。元ジャーナリストである彼のユニークなスキルは、チームの最も激動の時期を含め、マクラーレンの世間とメディアの知名度を変えるのに役立ちました。

マット・ビショップは、アストンマーティンが2020年のF1において信頼できる勢力としての地位を確立する上で重要な役割を果たした。有名なイギリスのブランドでの仕事中、彼は4度の世界チャンピオンであるセバスチャン・ベッテルと緊密に協力し、このドイツのスターが世界のトップ選手の一人になれるよう支援した。スポーツ界で最も人気があり知名度の高いアンバサダー。マットはヘイマーケット・モータースポーツ・パブリケーションズの編集ディレクターを務めた後、2008年に最高コミュニケーション責任者としてマクラーレン・レーシングに赴き、世界チャンピオンのルイス・ハミルトン、ジェンソン・バトン、フェルナンド・アロンソと緊密に連携した。

ジャーナリストおよび編集者としての彼の上級職には Car Autosport 当時世界最大の販売数を誇る F1 Racing など、多くの有名出版物での仕事が含まれていました。マクラーレンで 9 年間勤務した後、マットは 2018 年にコミュニケーション ディレクターとして W シリーズに加わり、画期的な全員女性レーシング チャンピオンシップの世界的な立ち上げの成功を監督しました。マットはダイバーシティとインクルージョンの促進において重要な役割を果たしました。

2020年にアストンマーティンに異動し、2021年と2022年に最高コミュニケーション責任者としてF1チームの立ち上げを監督した。マットはアストンマーティンのナンバーワンドライバーであるセバスチャン・ベッテルと緊密に連携し、多様性に焦点を当てた一連の画期的なメディアイニシアチブに取り組んだ。 、インクルージョンと環境。これには、ベッテルがBBCの政治討論番組「クエスチョンタイム」に出演するよう手配することも含まれていた。環境の持続可能性や気候変動などの重要なテーマについて議論するために F1世界チャンピオンが注目のショーに招待されたのはこれが初めてだった。

マット・ビショップは、モータースポーツ業界におけるLGBTQ+の包括性を促進するために、2019年にストーンウォールと協力して設立されたレーシングプライドの創設者アンバサダーです。彼は歴史的な自動車レースに関する豊富な知識と、クラシックカー愛好家の間で、コンクールで使用した 1967 シボレー コルベット スティング レイ C2 をこよなく愛することで知られています。出版作家でもあるマットは、2 度の F1 世界チャンピオンであるエマーソン・フィッティパルディの 2014 年の自伝 Emmo: a Racer's Soul を共著しました。彼の最初の小説 LGBTQ+ をテーマにした The Boy Made the Difference は、2020 年 8 月に出版されました。マットは、数々のミシュランの星付きレストランでシェフを務め、現在はロンドンで成功したレストランを経営している夫のエンジェル・バウティスタと一緒にロンドンに住んでいます。ロンドンのソーホー。

info@londonspeakerbureau.my +603 2301 0988